



はくろ（白鷺）の散歩Ⅵ

令和6年11月8日
～校長室の窓から～ 令和6年度 No.16
神奈川県立平塚中等教育学校
校長 松本 靖史

【富士山初冠雪 本校からも見えました。】

今年は、富士山の初冠雪が異常に遅くなっているようですが、令和6年11月7日（木）には、富士山の初冠雪が本校の3階からも見る事ができました。



【4年次生、温かな触れ合いの時間】

令和6年11月7日（木）の5、6校時、本校の4年次生徒と大原小全校生徒との交流会が開かれました。両校の交流を目的に、毎年11月に開催されている行事です。開催までに両校の児童・生徒が企画を練り、当日も基本的には児童・生徒主体で運営されます。今年はノースポールやパンジー、サクラソウのプランターへの花植えを一緒に行ったあと、生徒企画による「アキネーター」（名あてゲーム）、「どろ警」などのレクリエーションを行いました。

グループごと1つのプランターに土を入れ、苗を植え、水をやる共同作業の過程で、「気を付けて入れてね」「どういう風に並べようか」「上手、上手」「もう少し土をかぶせてくれる？」「何のお花が好き？」など、いたるところでプランターより先に小さな会話の花が咲きました。プランターに植えられた苗は今後小学生に大事に育てられ、小学校卒業式の際に飾られるそうです。そのとき6年生は特に、今日の温かなやり取りを思い出してくれるとうれしいです。



「アキネーター」（名あてゲーム）では、背中に「物の名」を書いた紙を貼られた中等生が、答えを知っている自分のグループの他の小学生たちに質問を繰り返す、それが何であるかを当てていきます。お題「スウェットパーカー（上着）」に対して、「それは土から生えていますか」などと

質問するような珍質問、珍解答が続出し、みんなでグラグラ笑い合いました。

「どろ警」は鬼役の警察から、中等生と小学生が逃げ回ります。中等生の手をしっかりと握ったまま逃げ回る小学生の姿がとても微笑ましく感じられました。コロナ禍では見られなかった触れ合いの光景が、やっと戻ってきたという印象を受けました。



年に1回の行事、さらにはたったの2時間という短い時間だったのに、会が終わると中等生に抱きついて離れない小学生がたくさんいました。大原小の子供たちは人懐こく、中等生が学校に戻ろうとするところに名残惜しく話しかけてきたり、戻った教室の窓から大きな声で呼びかけて手を振ってきたり…私たちはこの光景に自然と、隣に人のいることの温かさを感じました。握った手のひらの温かさ、笑顔の温かさ、さりげなく話しかける声の温かさなど、今日感じた温かさを忘れずについて欲しいと思います。この日は人とともに在ることの喜びを再確認した一日となりました。

（澤村副校長）

【2年生 まずは包丁の使い方から】

2年生は、11月のこの時期に家庭科で調理実習を集中的に行っています。

最初の実習は、包丁の使い方から。1本のきゅうりを用いて、拍子木切り、輪切り、乱切り、斜め薄切り、半月切り、いちよ切りといった切り方を学習します。包丁がまな板に垂直になるよう、右足を少し後ろに引く、「正しい姿勢」も学習します。切ったキュウリはハムとともにサラダにし、自分たちが作ったドレッシングをかけて食べました。

